

Day

2

タイトル

4. アフリカの廃棄物管理改善に資する日本の技術(本邦企業の取り組み事例)

発表者

株式会社鳥取再資源化研究所 ディレクター 狩野直之

要約

発表者から以下のとおり、説明があった。

当社は、2001年に鳥取県で設立された。6名の日本人と2名のモロッコ人スタッフで働いている。主な業務はガラスリサイクルである。廃ガラスから「ポーラス α 」と呼ばれるガラス発泡体を製造している。これは、脱臭や土壌改良、雑草除去、防犯ジャリ、水質浄化などに利用することが出来る。

当社は、ポーラス α をアフリカの農業分野で活用したいと考えている。なぜなら50%の水および肥料削減と共に収穫量の増加が期待できる。活用方法はシンプルである。マルチングの前に土壌に入れるだけである。日本の公的機関も我々のアイデアを支持している。例えば、JETROは地元企業や弁護士などの紹介、地域の諸規制等にかかる情報提供をしてくれており、JICAはモロッコでの実現可能性調査の実施に対して支援をしてくれている。

モロッコにおけるビジネスの枠組みにおいて、当社は、収集した廃ガラスからポーラス α を製造し、民間企業によってエンドユーザーに販売することを目指している。調査を通じて、1) VAT削減、2) 施設設置に関する初期投資、3) 運営パートナー、の3つの要素が重要だと理解している。

質疑応答においては、アフリカでのパートナー探しについては、ニジェールは、8割を農業に依存する農業国であり、今回発表された技術が活用できる資源が豊富に見つかる予測されるため、ニジェールがよいのではないか、という意見が出された。それに対して、質問が特定の内容であったため、モデレーターから、コーヒープレイク中に個別のミーティングを行うよう薦められた。(この意見は、当該発表と前の2つの発表に向けられたものであった。)